

大雨シーズンに向けての備え

防災安全課
内線273

6月から9月ごろは、活発な梅雨前線や台風の影響で、集中豪雨による水害や土砂災害が発生することがあります。特に最近では、東海豪雨、新潟豪雨、福井豪雨など集中豪雨による災害が多くなっています。

気象台からは、災害が起きる恐れがあるときに注意報、重大な災害が起きる恐れがあるときに警報が発令されます。美濃加茂市は美濃地方または中濃地方に該当します。

1時間に20ミリ以上の強い雨が降る場合は、側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる恐れがあり、注意が必要になります。1時間に40ミリ以上の激しい雨が降る場合は、下水管から雨水があふれたり、山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要になるような事態になります。常に最新の気象情報や防災情報をテレビ、ラジオ、市のホームページ(雨量や水位の実況や気象情報が開示されています)などから入手するようにしてください。

また、被害が心配される場合には、状況により避難勧告、避難指示などの避難情報を発表しますので、

市や県および警察署などからの呼び掛けに注意してください。

■美濃加茂市防災サイト

<http://www.city.mikamo.gifu.jp/HOME/bousai/bousai.html>

■岐阜県総合防災ポータルサイト

<http://www.bousai.pref.gifu.lg.jp/GDIS/>

(以上の文書作成に当たっては気象庁のホームページを参考にしています)



考えよう。共生時代⑦

アンデスの国へ渡った日本人

シリーズ

Buenos
Dias



4月から新しく国際交流員として市役所で勤務することになりました、黒田裕司です。今回は、わたしの故郷ペルーについてお話しします。わたしは1992年、10歳の時に来日して以来ずっと日本に住んでいます。ペルーと聞けば、「マチュピチュ遺跡」や「ナスカの地上絵」などを思い浮かべる人が多いと思いますが、日本人移民の歴史を知る人は、あまりいないと思います。

ペルーは南米西部にあり、日本と同じく太平洋に面して、南米で最初に日本人移民を受け入れた国です。1899年に桜丸で790人の労働者が渡海し、1923年に移民団が廃止されるまで、実に18,258人もの人がペルーへ渡り(一番多いのが沖縄県、それ以降も家族を呼び寄せるなど、多くの方がこのアンデスの国へと渡り続けました。現在は、約80,000人の日系人がペルーに住んでいます。これは、中南米でブラジルに次ぐ人数です。

日本人移民は、農業、特にサトウキビ園での労働を目的としていましたが、ペルーでの現実は大変厳しいものでした。そのため、移民の大半は農業をあきらめ、首都リマなどで理髪店や商店などの店を構えるようになりました。言葉の問題もあることから、日本人同士で協力してビジネスを行い、少しずつ社会的地盤を固めていったのです。

このように、100年を超えるペルーと日本との間の歴史を紹介することで、一人でも多くの人にペルーへの興味と理解を深めていただき、身近に感じていただけたらと思います。